



新潟市立潟東中学校 学校だより

令和8年1月8日（木） 第43号

希 望 橋

教育目標 豊かな心を持ち たくましく伸びる生徒

電話 0256-86-3007

「節目」を意識し、しなやかに成長する

～1月7日（水）全校朝会校長講話より～

心に「節目」を刻む

竹が空高く、折れずに伸び続けることができるのは、硬い「節（ふし）」があるからです。「冬休み明け」という今、この時期は皆さんにとっての大切な節目。これまでの自分を振り返り、一度グッと踏みしめることで、次の成長に向けた強さが生まれます。

「難しい」は脳が成長しているサイン

全校朝会では、脳の神経回路が結びつく映像を視聴しました。「もうダメだ」「難しい」と感じる瞬間こそ、実は脳が筋肉のように激しく鍛えられ、新しく生まれ変わっている最中なのです。

脳を味方にするワード

ピンチをチャンスに変える言葉を習慣にしましょう。

「脳が喜んでいる！」

緊張を「最高の準備」と捉え直す。

「まだ、できることがある」「おもしろくなってきたぞ」

思考を止めず、可能性を探し続ける。

「まずは、これだけ」

圧倒されそうな時ほど、目の前の一步に集中する。



【保護者向けコラム】

「できない」を「伸びしろ」に変えるご家庭での声かけ

冬休みが明け、受験や進級を控えたこの時期、お子様が不安やプレッシャーを感じる場面も増えるかもしれません。そんな時、ご家庭で意識していただきたいのが「グロース・マインドセット（しなやかマインド）」を育む声かけです。

・「結果」よりも「プロセス」を認める 「100点すごいいね」ではなく、「毎日机に向かっていたね」「その解き方の工夫がいいね」と、本人の努力や戦略に注目してあげてください。

・「まだ」という言葉を添える お子様が「できない」と弱音を吐いた時、『今はまだ』できないだけだね」と返してみてください。「まだ」という一言が、未来への可能性を閉ざさないお守りになります。

・失敗を「脳の栄養」と捉える 失敗した時に「次はどうすればいいかな？」と一緒に考えることで、脳は新しい回路を作ります。失敗を恐れるのではなく、学ぶチャンスとして楽しむ雰囲気を、ぜひご家庭でも大切にしてみてください。

第 2 回 球技大会（バレーボール）開催

3 学年委員会の企画・運営で大成功！

12 月 17 日（水）の 6 限、3 学年委員会の企画・運営による「第 2 回 球技大会」が開催されました。クラスの絆を再確認する大切な時間。体育館は冬の寒さを忘れるほどの熱気に包まれ、各コートで白熱したラリーが繰り広げられました。



熱き戦いを制し、栄冠を手に！

どのクラスも一歩も譲らぬ熱戦となりましたが、見事栄冠に輝いたのは以下のクラスです。おめでとうございます！

【男子の部】 優勝：3 年 1 組

【女子の部】 優勝：3 年 2 組

「支える力」と「応援の力」が作った最高の舞台

今回の大会の成功は、競技者だけの力ではありません。当日の運営をスムーズに進行してくれた学年委員の皆さん、そして公正なジャッジで試合を支えてくれたバレーボール部の皆さんの協力があったからこそ、全員が安心して楽しむことができました。

また、コート外からの割れんばかりの声援も印象的でした。クラスメイトがボールを繋ぐたびに沸き起こる拍手や歓声は、まさに「クラスの絆」そのもの。仲間を鼓舞するポジティブな声かけが、随所に見られました。



行事の経験を、これからの「心の節目」に

冬休み明けの講話では、「脳を味方にする魔法の言葉」や「節目を大切にすること」についてお話がありました。この球技大会で見せてくれた、仲間を支え、最後まで諦めずにボールを繋ぐ姿勢こそ、しなやかで強い「心の節目」を作る土台となります。

それぞれの学年が、この「節目」を糧にして、今の自分を一段と高く更新していく。そんな全校生徒のさらなる飛躍を、教職員一同、心から期待しています。